

令和 3 年度事業報告書 — 白楽荘・介護課 —

テーマ：自然災害や感染症対策により、入所者・利用者の安心・安全な望む暮らしの支援と
地域住民と支え合う仕組みづくりを目指す

サブテーマ：安心した生活が継続できるよう、個別化を重視し、チームケアで取り組んでいく

1. 利用者の権利と安全を最優先とした介護を提供する

- ① 1月に職員4名利用者6名のコロナ陽性発生によりクラスターとなる。ホームページにて情報提供し、地域の皆様・ご家族様への謝罪と共に注意喚起を行った。また、発生時より、保健所指導・感染管理認定看護師によるラウンドから、感染対応のゾーニングや標準予防策の徹底化・業務のスリム化、応援配置等、職員が一丸となり、無事12日間で収束することができた。その後マニュアル化し、BCP計画の作成に繋げることができた。
- ② コロナ禍の中、県の行動指針に添い、高齢者の生命を預かる事業としてやむを得ず面会の停止や制限を実施することがあり、寂しい思いをされる結果となる。感染委員会で検討を重ねて、月1回の手紙や、ラインでの写真報告、必要時には電話にて家族に報告を行う。直接顔が見えない現状が長くなったため、感染者数や近隣の状況に合わせて、面会再開をした。現在は窓越しではあるが、PHSを利用することで、ご本人との会話ができるようになり、喜びの声も聞かれた。
- ③ 「虐待芽摘みチェック表」を月1回記入、所属長と確認し振り返ることで、自分のケアを振り返ることができ、不適切ケアの防止が図れた。また、安全対策担当者を配置することにより、事故防止委員会では中心となって会議や勉強会を行い、職員の意識向上とケアの検討内容を法人全体で共有し、事故防止に努め、アクシデント発生時は検証の実施と、行政には5日以内の報告書の提出を行った。
- ④ 3月に自動体交エアマットを15台導入、利用者の褥瘡予防や快適な寝心地と、夜勤者の体位交換による負担軽減に繋がった。また、LIFEを導入・活用することで、ケア内容の共有化よりスキル向上となり、褥瘡予防や機能訓練の維持に繋げていった。特に口腔指導では、歯科医師から直接介護職へ指導を受けることにより、職員の口腔ケア技能の向上に繋がり、誤嚥防止に努めることができた。

2. 魅力ある職場を作り、職員のモチベーションを高める

- ① 外部研修では WEB にて東海北陸ブロック、看取り、感染症、認知症初任者研修を各チームの職員が受講し、介護の質の向上に繋がった。内部研修では、WEB 対応の他に施設内での勉強会を開催することで、受講率が少しずつ増加している。
- ② 7月～11月に2名の介護実習生を受け入れたことにより、新たな視点や気づきが、指導者を含めチームが協力することで発見でき、チームケアの大切さを実感し、チーム力の強化・向上に繋げることができた。また、コロナ禍の影響で、職員の家族が濃厚接触者になり、急な休みが重なったが、指導者の日々の指導力と本人達の頑張りで、技能実習生が十分に戦力になった。また協力体制の確保もでき業務が滞ることはなかった。
- ③ 計画的に有給取得ができたが、個人差があり、負担が偏っているも見受けられた。今後も応援体制による協力や職員の募集（夜勤や変則勤務が可能な職員）が必須。